

看取りケア研修 アンケート結果

参加人数： 50人 アンケート回収数： 44名 回収率 88%

1. どの事業所に属していますか

介護老人福祉施設 8名 介護老人保健施設 5名 訪問介護事業所 2名
デイサービス・デイケア 1名 グループホーム 6名
介護療養型医療施設 3名 障害者施設 2名 病院 9名
小規模多機能型居宅介護 0名 福祉系学校 1名
その他 6名 (有料老人ホーム1名 サービス付き高齢者住宅1名 不明4名)
無記入1名

2. 職種を教えてください

介護職員 32名 介護支援専門員 3名 生活相談員 1名
ホームヘルパー 1名 看護師 2名 福祉系学校の学生 0名
その他 5名 (生活支援員1名 不明4名)

3. 本日の研修はいかがでしたか

大変良かった 24名
良かった 17名
期待したほどではなかった 0名
無記入 3名

《感想》

- ・死へのイメージが変わった。今まで恐怖、不安しかなくなるべく関わりたいと思っ
ていた、これから積極的に勉強して関わりたいと思った。
- ・何人も看取りケアをしてきたが、少し考えが変わった。「死」は当たり前の事だと、気持
ちが軽くなった。家族との関わりをもっと深めていきたいと思う。
- ・いろいろな話が聞けて新鮮だった。看取りの意味、死の意味が少し変わった。
- ・職場が病院のため、酸素、点滴が当たり前で患者の気持ちに反しているのかもと、考え
させられた
- ・“死よりも今が重要”なので家族をいかに巻き込むかを考えていきたい。
- ・家族がかかわっていくことの大切さ、病院だと難しいができることを考えたい
- ・家族を巻き込むケアの重要性を感じた。家族が記入できるグリーンケアの希望や本人の
好きなもの etc のチェックシートを作りたいと思った。
- ・もっと家族を巻き込んだケアが大切だと思った。施設にまかせっきりの家族がいるなか

で、いかに巻き込んでいくかがこれからの課題だと思う。

- ・利用者自身だけでなく家族に対してのケアについて考える機会となった。
- ・病院併設のグループホームのため、看取りの意味、体制を整える大変さがあり動けなかったが、役割をしっかりと考え看取りにつなげたいと思った。
- ・看護師と介護福祉士は横並びの関係で、情報を共有し合って利用者を支えていくための協働が必要なのだと再認識した。自己研鑽、努力します。
- ・最近、施設で立て続けに利用者が亡くなり、家族、利用者へのケアに悔いが残ることがあり受講した。解決策はないだろうが、受講したことでアプローチの方法増えた気がする。専門職としての立場を忘れがちだった気がする。
- ・残された時間をその人らしく生きることだと学んだ。とても良い研修だった。ありがとうございました。
- ・今までは末期だけを主に考えた介護だったが、元気な時から家族との“橋渡し”の大切なことを学んだ。病院に預けっ放しの家族にももっと積極的に連絡を取っていこうと思った。
- ・最後のグリーフケア、患者様、ご家族への対応、その場になった時に丁寧に関わっていきたいと思った。
- ・亡くなるまでの最期の時間を本人にとってどう過ごすかが大切だと思った。自施設では職員間と家族との会話が少なかったと思った。利用者の意思も含めて、もっと話し合いをしていきたいと思う。
- ・今まで看取りを難しく考えていたが、特別なケアではなく日常のケアもターミナルケアにつながるということが分かった。家族を交えて話し合い、ケアすることで悲嘆の軽減につながる。これを施設に帰って生かせるように支援したい。
- ・看取りケアに取り組んでいるが認知症の方が多く意思疎通が難しい。満足されているか不安に思うことがある。学んだことを生かして、何ができるのか、どうしたら満足してもらえるか常に考えながら取り組んで行こうと思った。
- ・家族、ご本人の意見、意向に寄り添う看取りの大切さを振り返れた。
- ・今まで何人もの方の看取りをさせていただいているが、改めて深く考える機会を得て、これからの介護に役立てていきたい。また、死に行く方を真摯な気持ちで関わりたいと思う。
- ・看取り＝病院という考えだったが、在宅、施設でも希望すれば大丈夫だと分かった。大変だと思うが、看取りを経験することがあれば本人、家族が安心して旅立つことができるよう支援していきたい。次回は認知症の看取りを聞いてみたい。
- ・特養に勤めて多くの死があり、最後を園でゆっくり迎える方も増えている。その中で自分の役割（介護支援専門員）や施設スタッフの役割や立ち位置を改めて認識し、今後の指針とすることができた。原田先生の講義は実践を交えての話でとても分かりやすかった。

- ・看取りケアの流れがよくわかり、自分自身の心構えができた。
- ・関わり方が勉強になった。
- ・実際の様子が聞けて勉強になった。
- ・終末期がどういう事なのか、何が不安なのかわかった。今までのイメージは、臨死期～臨終のみのイメージでそこが不安だったが、そこに至る過程が大切だという知識が持てた。「何もしないでください」という家族の希望の中で具体的に何をすればよいのか理解できた。
- ・チームで同じ理念を持つことの大切さ、自己決定、自立支援の尊重。→本人の思いを知る・聴く。そして寄り添い、受け入れ、支えてあげる事。家族を巻き込んでいく、本人、家族の希望が実現できれば悲嘆の軽減につながる。
- ・最後に今後どう取り組むかを考え話し合うことができて良かった。その人らしさをどのように大切にするかを意識して取り組んでいきたいと思った。
- ・私個人としては、看取りの最期の一息まで質の高いケアを提供したいと思っているが、スタッフ間でも考えに温度差や質の違いを感じ同じ方向に向いていないと思う事がある。個人プレーでできるケアではないので難しいテーマだと思う。勉強になった。ありがとうございました。
- ・仕事は見てあげるお手伝いでも私の年齢はすでに看取ってほしい方です。どちらの思いも分かってよかった。ありがとうございました。
- ・利用者様の内的世界に目を向けて、普段のケア、ターミナルケアを実践していきたいと思った。
- ・在宅の話が多く少し施設との違いがあり、学ぶこともあったが満足できなかった。
- ・らしさノートを見られたのが良かったです。
- ・自分で意思決定できない方の看取りの関わり方をどうしているのか？もう少し聞きたかった。
- ・悔いのない仕事をする事ができる環境がとてもうらやましい。あまり亡くなった方を見る事がないので亡くなってどうされるのかを知らないなので、体の変化なども教えてほしい。
- ・内容がターミナルケアの基礎・基本を幅広くおさえたものだった。特に薬については参考になった。今後は実践例を交えた具体的なケアを聞いてみたい。
- ・看護協会でも講義されると聞いている。もう少し踏み込んだ内容を聞きたいのでぜひ受講したいと思う。
- ・合間に動物の写真があって息抜きができた。1時間ごとの休憩もあり、非常に受講しやすかった。看取りやターミナルケアの経験がなくグループワークも難しかったがみんなの意見も参考にしていきたいと思った。
- ・いろいろなことを感じ、考えさせられた。
- ・看取りをするにはやはり、信頼関係の持てる医療職との連携がなければ無理ではと思う。

職員の不安をまず取り除くことが大切だと思う。信頼関係がないと看取りケアではなく見殺しケアになりかねません。

4. 今後受けてみたい研修内容、研修講師などありましたら、ご記入ください。

- ・ 認知症について ・ 認知症ケア ・ 認知症のレク ・ 認知症の対応、事例
- ・ 認知症の方の食事ケア（嚥下、咀嚼、認知機能が低下した方の介護）
- ・ 記録の書き方 ・ 嚥下困難な方の食介 ・ 機能訓練 ・ エンゼルケアの内容
- ・ 喀痰吸引（資格取得につながるもの） ・ レクリエーション ・ 感染症対策
- ・ 事例、介護研究セミナー（今までの取り組みの振り返り、意味、価値、成果の周知）
- ・ コーチング ・ 褥瘡予防のために体位変換の方法や最新の情報
- ・ 看取りケアの具体的方法 ・ 病気、薬の知識、副作用、医療職への報告の着眼点など

- ・ 原田先生の講義 ・ 久田先生の研修 ・ 藤川幸之助（福岡の詩人）